

2日目(11月22日午前10:00~)セッション概要-1

A-1 「総論賛成各論反対」を制すP2Mの技 成長を続けるためのシナリオ作り

イースタスク株式会社 渡部 寿春
水ing株式会社 内田 淳二
デリア食品株式会社 藤澤 正則



【セミナーの狙い】

20世紀は油で戦争をした時代、21世紀は水で争う時代になるかも知れない。今回セミナーでは、少子化する社会構造変化や老朽化した施設の再整備などへの対応で、大きな変革を迫られている日本各地の代表的水道事業体の再生への試みを事例に取り上げる。多様なステークホルダーの合意形成が欠かせない複雑系プロジェクトでの目標設定と行動計画の策定プロセスの実際を模擬体験してもらおうと同時に、生命の水に関わるホットな話題で知見を広めていただきたい。

【セミナーコンテンツ】

- ・複雑系プロジェクトの価値創出におけるリーダーシップ
- ・長期で考え短期で対応し変革につなげるシナリオづくり
- ・知識と行動から生まれる人間力

【受講をお勧めする方】

- ・PM実践力を高めたい方、P2Mの応用に関心のある方
- ・各種PM“知識”を“行動”で試してみたい方

【講師略歴】渡部 寿春:金融機関の海外市場系プロジェクトを推進。MBA(英国アバテイ大学)、PMR、PMシンポジウム企画、ITC。/内田 淳二:エンジニアリング専業にてPM経験を積む。現在、株式会社水ingの内部統制部門にて輸出管理全般を担当。PMR。/藤澤 正則:キユーピー株式会社入社。生産、設備・工場計画業務を経験後、CVSの組合へ出向し、しくみづくりに関わる。現在、サラダ惣菜事業のしくみづくりに関わっている。PMR。

A-3 勝てる組織の作り方ISOからAgileまで PMのISO化元年今考えようPMのコンピテンス!

日本電気株式会社 SI・ITサービス技術本部
エクゼクティブ・エキスパート 田島 彰二

【セミナーの狙い】

PMが昨年ISO21500として初めて標準の世界で認知された。このタイミングで勝てる組織を作るために参考となるISOに限らず各種標準、ベストプラクティスを鳥瞰して、そのための個人のキャリアパスの作り方、さらに勝てる組織を作った後に戦略のデザインまでをご説明する。

【セミナーコンテンツ】

- 1) ISO21500の概要、その他のPMのISO化の概要
- 2) キャリアパスの考え方
- 3) PM組織の評価(PMI® OPM3, The Open Group TOGAF, OGC/CO P3M3等)
- 4) ポートフォリオ、プログラム標準の最新の動向
- 5) 戦略デザインの考え方

【受講をお勧めする方】

PMの組織を束ねている方、PMOの責任者の方、上級PMの方、職種転換でPM関係(PMO組織)等へ配置換えになった責任者クラスの方、将来を考えたいPMの方、これからPMになって将来設計を考えている方

【講師略歴】IT系企業で、プロジェクトを35年以上経験、プロジェクトマネジャー、プログラムマネジャー、ポートフォリオマネジャー、GMを経験。新規事業・プロジェクトを担当。IBMとの連携プロジェクトでCTOイノベーション賞を2010年に受賞。PMのISO化作業を最初期から参画し、現在はその上位のポートフォリオ標準等のISO委員。PMP®, ITコーディネータ、ITIL、IPMA、PMI®, PM学会、itSMF会員

A-2 圧倒的成果と良好な人間関係のつくり方 ストレス軽減!主体的に人を動かすマネジメント

インスパイア型リーダー育成トレーナー **ワークショップ**
元青森放送アナウンサー 選択理論心理士 後藤 清安

【セミナーの狙い】

組織パフォーマンスは個人のスキルと組織効率の積。つまり意思疎通がうまく回れないと心的ストレスが増すだけでなく業績向上も望めない。コミュニケーションがうまくいかない要因は「相手の状況が理解できないこと」。どうしたらお互いを理解し共に成果に向かうことができるのか?違いを理解しながら、同じゴールに向かって主体的に動ける自立型人材のチームを創るためのリードマネジメントシステムという新たな考え方を紹介する。

【セミナーコンテンツ】

- *パーソナルタイプを知る
- *行動のメカニズムを知る
- *リードマネジメント5つの柱
- *成果を阻む外的コントロールのマトリクス

【受講をお勧めする方】

職場環境を活気あるものにしたい方、主体性のある人材を育成したい方、いろいろな手法を学んでも職場に適用できていない方、ヒューマンスキルを磨きたい方

【講師略歴】1995年青森放送入社。独立後はインタビューのプロとしてフジテレビスーパーニュース、日経CNBCのリポート、日本経済新聞社主催シンポジウム・政府系式典司会など多数担当。現在は、リーダー育成をベースとした地域活性化プロジェクトを主宰。コミュニケーション、プレゼン、チームビルディングの研修・コンサルティングなどを通じて周囲を巻き込めるインスパイア型リーダーの育成を手掛けている。

A-4 海外インフラPJに必要なリスク管理 新興国での事業リスクを最小化するプロセスと手法

マーシュローカージャパン株式会社
マネージングディレクター 木埜山 浩
クライアントエグゼクティブ 大野 紳吾 **ワークショップ**

【セミナーの狙い】

海外プロジェクトで直面するリスクを効果的に管理するためにはどうすれば良いか?また、どのような対策を講じるべきか?リスクマネジメントのプロセスとリスク軽減の手法について解説し、新興国のインフラプロジェクトを想定した演習を通して、プロジェクトを成功に導くヒントを学ぶ。

【セミナーコンテンツ】

1. リスクの基本概念
2. リスクマネジメントのプロセスとリスク軽減の手法
3. グループ演習

【受講をお勧めする方】

海外インフラプロジェクトの実務に携わっている方、または興味がある方

【講師略歴】木埜山 浩:シカゴ大学MBA修了。ジャパンインフラ/エナジープラクティス統括。発電所(含原子力)、空港、鉄道、高速道路、プラント、クロスボーダーM&A等のリスクマネジメントの経験多数。/大野 紳吾:京都大学工学部卒業。IE Business School MBA修了。日系ゼネコン及び米系エンジニア会社でのPM経験を生かし、国内外の建設プロジェクト案件のリスクアドバイザー業務に従事。一級建築士。シックスシグマグリーンベルト。PMAJ会員。

A-5 仕事を通じて若手を育てる実践的テクニック プロジェクトマネジャーとして現場でいかに若手を育てるか

グローバル ナレッジ ネットワーク株式会社
人材教育コンサルタント/産業カウンセラー 田中 淳子 **ワークショップ**

【セミナーの狙い】

人の成長は、7割が自分自身の直接体験から醸成されると言われています。プロジェクトにおいて、プロジェクトマネジャーはプロジェクトメンバとともに、プロジェクトの目標に向かって仕事を進めるだけではなく、メンバの育成も考える必要があります。メンバを成長させることで、よりよい成果が上がるからです。このセミナーでは、プロジェクトマネジャーが現場で実践できる「若手育成」のちよっとしたコツを体験的に学習します。演習あり。

【セミナーコンテンツ】

- 若手が育ちづらい現代の事情
- 若手との関係構築
- 教えることと考えさせること
- 振り返りの支援
- プロジェクトマネジャー自身も成長し続けること

【受講をお勧めする方】

- プロジェクトメンバの成長を真剣に考えているプロジェクトマネジャーやリーダー
- 「ITマネジャーのための現場で実践!若手を育てる47のテクニック」に沿った内容です。

【講師略歴】1986年日本デジタルイクイップメント入社、IT技術教育に従事。96年より現職。ヒューマンスキル分野の人材育成に専念。2003年からは各社の「OJT制度支援」に力を注ぐ。著書「速効!SEのためのコミュニケーション実践塾」「速効!SEのための部下と後輩を育てる20のテクニック」「ITマネジャーのための現場で実践!若手を育てる47のテクニック」「はじめての後輩指導」、ブログ「田中淳子の“大人の学び”支援隊!」Facebook: TanakaJunko

A-7 システム開発とコミュニケーション 伝わるコミュニケーションの方法

株式会社イマテック
顧問 板倉 稔 **SIG ワークショップ**

【セミナーの狙い】

システム開発では、様々なコミュニケーションがなされるが、しばしば期待通りに通じない。この問題にどうすべきかを知り、かつできるようになることを狙いとする。コンピュータ・システム開発は、人の頭の中にあるアイデアやルールをコンピュータが実行できる様にするのである。これ自体が実世界の意図をコンピュータ世界に写すコミュニケーションである。その他で行われるコミュニケーションの事例を含めどうすれば伝わるかを習得する。

【セミナーコンテンツ】

- 講義
1. システム開発とコミュニケーション
 2. コミュニケーション・プロトコル
 3. 分かる(伝わる)とは
 4. 伝わるドキュメント
 5. ドキュメント以外の伝わるコミュニケーションの知見

【受講をお勧めする方】

文章修正
演習 文章修正
【受講をお勧めする方】
コンピュータ・システム開発でコミュニケーションを改善したい方

【講師略歴】1967年富士通入社、システム本部第二システム開発部長、システム開発技術部長。1999年NTTコムウェア顧客料金系事業部副事業部長。2001年センゾ情報システムズ 常務取締役。2004年現職。中規模から一万人月超のシステム開発プロジェクトで設計からプロジェクト管理、開発標準、モデリングなどの開発。著書「スーパーSE」、「知のモデリング」など 論文「ICSE」など多数、日本品質管理学会会員。

A-6 アラ還プログラム 実行中 パーソナルプロジェクトから学んだこと

プラネット株式会社
シニアコンサルタント 中 憲治

【セミナーの狙い】

誰も人生で達成したい夢がある。夢を実現するためにはどうすればよいのか、現在遂行中である「アラ還プログラム」での経験を基に「立ち上げ」「計画」「実行」「コントロール」「終結」の各プロセスにおいて、遭遇する問題と対処、陥りやすい錯誤など、どちらかといえば失敗経験から学んだことを中心に、パーソナルプロジェクトの面白さを伝えていく。

【セミナーコンテンツ】

- ・「アラ還プログラム」とは
- ・夢を実現するためには
- ・問題解決プロセスに横たわる雲
- ・パーソナルプロジェクトからの教訓

【受講をお勧めする方】

夢を実現したいすべての人。
夢を実現するためのパーソナルプロジェクトは、立ち上げるに早すぎることはない。
若い人にもパーソナルプロジェクトに、今から取り組んでほしい。

【講師略歴】日産自動車と日本テレコム(現ソフトバンクテレコム)で30年間勤務、2003年よりプラネットにおいてプロジェクトマネジメントのインストラクターに従事。PMP®。リクルートマネジメントソリューションズ「シンキングマネジメント」トレーナー
著書「通勤大学図解PMコース プロジェクトマネジメント実践編」

A-8 ICTで活かすなぜなぜ5回(階) 実践的質問とアジャイル開発のTPSとの考察

株式会社富士通アドバンスエンジニアリング
SIサポート本部 シニアプロフェッショナル 小原 由紀夫 **SIG**

【セミナーの狙い】

PMAJのIT-SIG内のTPSに学ぶPM-WGでは、工場で生まれたTPS(トヨタ生産方式)を研究してきた。「なぜなぜ5回」をICTに取り込むために3つのフェーズ(①問題識別、②なぜなぜ5階層、3真因の検証)を体系化した。ICT現場での実践的質問を紹介する。一方、アメリカではTPSをリーンとしてアジャイル開発に取り込み、発展している。アジャイル開発のTPSとなぜなぜ5回の考え方と比較し、ICTでのなぜなぜ5回(階)の活用を提言する。

【セミナーコンテンツ】

1. なぜなぜ5回の課題
2. ICTでの実践を高める質問
3. アジャイル開発の中のTPS
4. アジャイル開発となぜなぜ5回
5. ICTでのなぜなぜ5回(階)の活用

【受講をお勧めする方】

ICT現場のPMとメンバー、アジャイル実践者、ICT企業の上司・経営者

【講師略歴】1983年富士通入社、出向、転籍を経て現職。20年間、日本の電機・自動車のグローバル企業の工場システム構築にベンダーのプロジェクトマネジャーとして参画した。グローバルPMメソッドロジーとTPSのセミナーと実践支援をしている。PMP®。PMAJ会員。PMI®会員。米国ケイデンスマネジメント社(2009 PMI® Provider of the year)認定講師。PMAJ-IT-SIG TPSIC 学術PM-WG主査。